

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 氏名 榊原 毅
指導教授氏名	井原 一成
論文審査担当者	主 査 小林 恒 副 査 富山 誠彦 副 査 中村 和彦
(論文題目) 高齢者における認知機能と残存歯数の関係 (Association between cognitive function and number of teeth in elderly people)	
<p>(論文審査の要旨) 高齢化社会の進展に伴い認知症の対策が重要となっている。近年、口腔機能と認知機能との関係が注目されているが、記憶力低下と歯数との関係を検討した報告はない。本研究では認知機能評価の指標である Mini-Mental State Examination (MMSE) に加え、記憶力に関する代表的な指標であるウェクスラー記憶検査 (WMS) を実施し、歯数と認知機能、記憶力との関係について調査・検討した。</p> <p>対象は 2017 年の岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診及び 2017 年のいきいき健診を受診した 60 歳以上の一般住民 1,782 名である。解析対象者は、その中から歯数と認知機能に影響を及ぼす可能性が大きい悪性腫瘍、脳卒中、心疾患及び精神疾患の既往を有する者、欠損値のある者を除外した 1,428 名 (男性 542 名、女性 886 名) である。</p> <p>測定項目としては認知機能は MMSE、記憶力については WMS により評価した。歯数は残存歯数を数えた。身長体重から BMI を算出し、アンケートにより性別、年齢、病歴、喫煙飲酒習慣、教育年数を調査した。対象者を 75 歳以上、60-74 歳の 2 年齢階級に分けて、男女ごとに歯数と MMSE スコア、WMS スコアの相関関係を年齢、BMI、飲酒喫煙習慣、教育歴を調整因子として検討した。</p> <p>その結果、MMSE と歯数について、調整を加えた場合、女性 75 歳以上で有意な正の相関関係が認められた ($P=0.030$)。男性はいずれの年代においても有意な相関関係が認められなかった。WMS と歯数との関係については調整を加えた場合、男女とも 60-74 歳で有意な正の相関関係が認められた (それぞれ $P=0.005$, $P=0.02$)。</p> <p>以上の結果より認知機能低下よりも年齢的に先んじて、歯数の減少が記憶力の低下を惹起している可能性が示唆された。本研究の結果から、認知機能に対する歯数減少のリスクはこれまで考えられていた以上に大きく、若年期からその影響が及んでいるものと推測され、若い年代からの口腔管理の重要性を示唆した論文であり学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌 29 巻掲載予定